

日本の地図文化継承と振興を目指して 国内有数の古地図コレクションを3月24日～31日まで公開！

企画展『西洋人の描いた日本地図 ～マルコ・ポーロからシーボルトへ～』

株式会社ゼンリン(本社:福岡県北九州市、代表取締役社長:高山善司、以下ゼンリン)は、2019年3月24日(日)～3月31日(日)、16世紀～19世紀にヨーロッパで作られた西洋古版日本地図コレクションを Bunkamura Box Gallery(東京都渋谷区)にて公開します。

■取り組みの背景

地図は、紙からデジタルへと形を変え、「人が読む地図」から「機械が読む地図」に進化し続けています。ゼンリンは、地図の利用環境が変わり続ける中で新たな挑戦をし続けていくと同時に、地図文化を継承することが地図会社としての意義であると考えています。創業70周年を機に、これまで続けてきた地図文化振興の取り組みをさらに拡大し、人々の暮らしに貢献していきます。

■開催概要

テーマ : 西洋人の描いた日本地図
～マルコ・ポーロからシーボルトへ～
開催期間 : 2019年3月24日(日)～3月31日(日)
開館時間 : 10:00～19:30 ※最終日は17:00まで
会場 : Bunkamura Box Gallery
<https://www.bunkamura.co.jp/>
東京都渋谷区道玄坂 2-24-1
入場料 : 無料



■出展内容

地図は、いつの時代も人びとの営みや世界観を映し出してきました。一枚一枚の地図は、未踏の地への憧れや布教活動など、それぞれの地図が作られた目的や背景を物語ります。本展では、ゼンリンがイギリスの古地図収集・研究家、ジェイソン・C・ハーバード氏より新たに取得した692点の中から厳選した地図を展示し、西洋人が描いた日本地図の変遷を目的や背景とともに紐解き、地図の新たな魅力を紹介します。

【展示する地図の一例】



(左)ブランクス及びモレイラ/日本図

モレイラは、16世紀後半に日本に長期滞在した唯一の西洋人地図製作者で、世界ではじめて実態に近い日本図を作り上げました。本図が後の西洋製日本図に与えた影響は大きく、この原図は以後300年にわたり使われ続けます。

この地図は日本の教会史に挿入する意図があったとみられていますが、未刊に終わってしまったため、世界で1点しか見つかっていません。

<参考資料>

■今後の取り組み

日本の地図文化継承と振興を目指し、今後以下の内容^(※)を予定しています。

1. 保有する地図コレクションの整理とアーカイブ化
2. 保有する地図コレクションのデジタルコンテンツ作成
3. 保有する地図コレクションの公開
4. 日本の地図文化を語れる人材(マップキュレーター)の育成
5. 保有する地図コレクションの事業活用

※ 内容は変更になる可能性があります。

■企画展 展示内容の紹介

ゼンリンが保有する地図コレクションの中から、16世紀～19世紀にヨーロッパで作られた西洋古版日本地図を厳選し、西洋人による黄金の国ジパングの発見から、現在の日本に至るまでの変遷を一連のストーリーで紹介します。

想像で描かれた黄金の国「ジパング」

マルコ・ポーロ
『東方見聞録』
1298年



ポルドーネ「日本図」
1528年

西洋の測量技術により正確さを増す地図



オルテリウス/ティシェイラ
「日本図」1595年



ブランクス/モレイラ
「日本図」1617年

鎖国政策により西洋の地図作りは迷走



ケンペル
『日本誌』1727年



レーラント
「66州に分けられた日本」1715年



タヴェルニエ
「日本図」1679年

シーボルトが伊能図を持ち出し、西洋の日本地図が完成



シーボルト
「蝦夷と日本領千島地図」1852年



ペリー/ホークス編
「ペリー艦隊日本遠征記」1857年

現代の地図へ

以上